

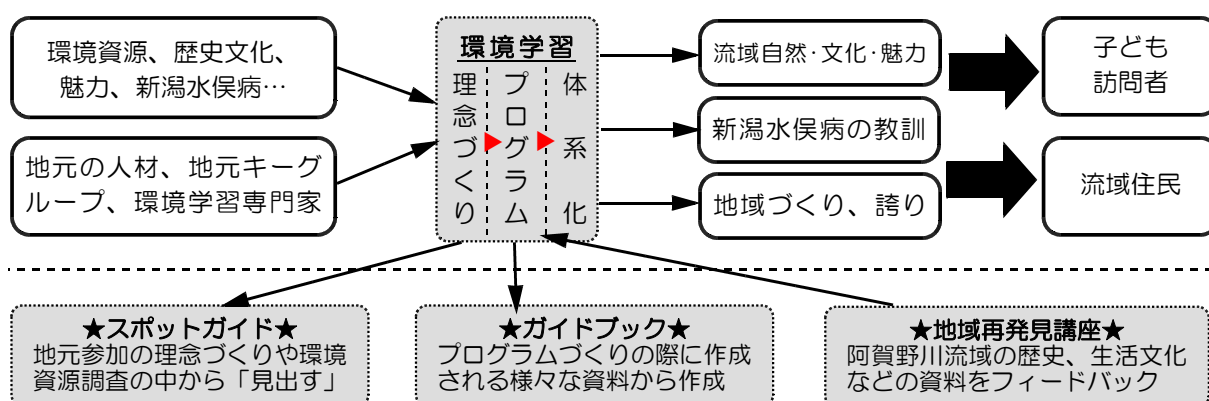
阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業 環境学習系事業の方向性について(案)

H21.5.26

1. 事業実施の方針

- 阿賀野川流域を「日本の環境史」を辿れる環境体験学習の「日本で唯一の場」として整備し、訪問者へ流域だからこそ伝えられる「大切な価値観」を伝える。
- 流域を舞台とした環境学習づくりを通して、または、訪問者を歓迎し交流する営みを通じて、新潟水俣病を含め、流域への理解を深める機会を住民に提供し、流域の特徴や独自性を活かした地域づくりや、流域に対する誇りにつなげる。
- その結果、新潟水俣病の教訓の普及啓発や、地域の再生・融和が図られる。

【イメージ図】



2. 具体的方策

●環境学習プログラムづくり (※各段階で WT を結成する)

理念づくり	① 環境学習の専門家や流域に詳しい人も参加し、原案作成。 ② 原案をもとに、流域のキーグループや人材と意見交換。
環境学習プログラムづくり	① プログラムづくり：資源の調査・資料作成 ② モニターツアー：FM 委員が参加して試行・検証
環境 P 体系化	環境学習プログラムづくりと並行して、体系化作業も実施

○流域全体を舞台とした環境学習のイメージ：日本で唯一、阿賀野川流域だけが持つ、日本の環境史(鉱害→四大公害→現在)を辿って学べる潜在力を活用。

光	○殖産興業の発展	○高度経済成長	○現在の環境取組み
影	○鉱害(煙害・鉱毒)	○四大公害の一つ	○川問題・過疎問題
資源	・草倉銅山 ・足尾銅山、他鉱山	・新潟水俣病関連 ・昭和電工、鹿瀬	・体験学習、トゲソ ・自然、生活の知恵

○スポットガイド：地元参加の理念づくり、環境資源調査、その他ロバダン等の機会において、随時、発掘していく。(※精通している、技術を持っている、誇りを持って従事している、自分の言葉で人へ語れる、などを重視。)

○ガイドブック等：環境学習プログラム体系(→目次)に合わせて、各環境プログラムの個別資料(→内容)から作成していく。

●地域再発見講座「阿賀野川ものがたり」

- 地元住民と共に、阿賀野川の歴史・生活・文化の光と影を発掘し学習する講座
- 講座テキストや作成資料が、環境学習プログラムづくりにフィードバック。
- 流域の資源を活用した講座やフィールドワークを通じて、「阿賀野川の歴史・生活・文化」の中の一部としての「新潟水俣病」や、その両方から共通して導き出せる普遍的な教訓を伝えられる。

3. スケジュール

地域\年度		H21			H22	H23
		4～7月	8～11月	12～3月		
環境学習	理念づくり	←→				
	プログラムづくり		←→	←→	←→	
	モニターツアー			←準備	←→	←→
	体系化		←→			
	ガイドブック				←→	
地域再発見講座		←準備	開催	←準備	開催	

※今年度は草倉銅山プログラム化がメインだが、イベント系 WT にて策定する。